

新年のご挨拶

組合員のみなさん、御家族のみなさん、新年おめでとうございます。そして、JR東労組運動への御理解、御協力に感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

2020年は新型コロナウイルス感染症拡大に翻弄された一年でした。そして、それはいまなお、終息の兆しは見えていません。その中であっても、職場では組合員のみなさんが感染症への恐怖と不安の中で、JR東日本としての使命を果たすために尽力しています。その恐怖と不安は仕事へ送り出す御家族のみなさんも同じだと思います。JR東労組は組合員や御家族の不安を少しでも取り除くために、尽力して参ります。

新型コロナウイルスは日本経済に大きな打撃を与え、JR東日本も2021年度3月期計画の経常利益は、単体で5010億円の赤字と発表しました。厚生労働省の発表によると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関連する解雇や雇い止めが、見込みを含めて7万4000人を超えています。

JR東労組は社会現実を認めつつも、受け身の姿勢ではなく攻めの姿勢で「組合員の雇用と利益を守るために会社の黒字経営をめざしてできる事は何か」の議論を行ってきました。組合員からは200件を超えるアイデアが寄せられています。また、年末手当についても、アンケートを通じて要求づくりの段階から組合員に参加していただきました。結果、要求に対して2.2ヶ月の回答を受けたことに多くの組合員から労働組合の大切さを実感した声が寄せられています。組合員の雇用と利益を守るために、置かれた現実に踏まえて具体論を持って取り組んできたのが盛岡地本の歴史です。したがって、盛岡地本は今後、出されているアイデアに基づき、私たちの取り組みをどう創り出すかについて議論を深めていきます。そして、2年連続の赤字を回避し、組合員が安心して仕事と生活が出来る環境を創っていく所存です。



2021年のJR東労組の課題は、一つ目に社会の環境変化に伴う働き方の変化や生活の変化、また、その中で進められているJR東日本のグループ経営ビジョン「変革2027」に対し、労働組合として職場や地域の現実、組合員の「安全・健康・ゆとり・働きがい」を対置、議論しながら、組合員の雇用と利益を具体的に守っていくことです。収入の8割が経費となっているJR東日本の鉄道事業は、今後構造改革とコストダウンが進められ、私たちの働き方も大きく変わっていきます。働き方の変化が単なる労働強化にならないように守るべきものを組合員と共に議論、確定しながら、向き合っていきます。

課題の二つ目は、組織の強化と拡大を実現させることです。国鉄採用者の退職に伴い、組合員数が減少している現実の中で、私たちはJR東労組運動を残していくために組織の強化と拡大を危機意識を持って進めていかなければなりません。社員代表選の得票数に見られるように、JR東労組を多くの方が頼りにし、そして期待しています。形だけの労働者組織では何も生み出せません。私たちは真に働く者の立場から、現実を捉え、考え、意見し、または運動を創る組織として存在していかなければなりません。そのために組織の強化と拡大は必須の課題です。ギアを上げて取り組んでいくこととします。

2021年も私たちを取り巻く環境が目まぐるしく変化していく一年になろうかと思えます。その中で私たちは組合員の雇用と利益を守る目的にブレることなく進む所存です。盛岡地本執行部は、2021年を将来に向けて大切な一年と捉え、明るく元気に精一杯奮闘していきます。組合員・御家族の皆様にとって、良い一年となることを御祈念申し上げます。年頭の御挨拶と致します。